企業紹介

北日本印刷株式会社

北日本印刷は、昭和22年4月8日に創業し、お陰様で今年70周年を迎えることができました。印刷を主軸に置くと共に、クロスメディアへの展開も模索しながら、日々、切磋琢磨し実績を築いてまいりました。

事業所は富山市の草島工業団地内にあり、社員56名が毎日元気よく働いております。「全員参加で築き上げる働き甲斐のある企業」を目指すうえで、「お客さまから選ばれる」ことが不可欠であると考えています。そして、社会貢献と環境負荷の低減に向けて努力すると共に、新たなチャレンジを続けることが、お客様からの信頼と会社のイメージアップに繋がるものと思います。今後も、皆様方から必要とされる企業を目指して邁進して参ります。

昨年は、協会けんぽ富山支部の「健康企業宣言」に応募し、日頃の小さな積み重ねからSTEP1の認定を受けました。今回、会社の健康づくりの取組みの一部を紹介させていただきます。

1 健康診断の実施

毎年4月に、生活習慣病予防健診（35歳以上）と定期健診（35歳未満）を実施しております。併せて有機溶剤取扱者には特殊健診を年2回実施。今年は全員受診達成しました。また付加健診や、子宮がん検診、乳がん検診の案内をし、希望者には総務が窓口となり受診し易い体制を整えています。今まで胃のバリウム検査を受診されなかった人にも必要性を説き受診を推奨しています。

2 専門機関・産業医の活用

健診で所見が見つかった社員を対象に、特定保健指導や、労災保険の二次健診を実施しています。管理栄養士さんの適確な個別面談によるアドバイスや手紙により、生活スタイルの改善に自ら取り組んでいる者もおり、数か月後にあらためて面談を実施し評価を得ています。また有所見者や希望者を対象に、産業医による健康相談も実施しています。

3 分煙対策

「百害あって一利なし」。社員の喫煙割合が全社員の4割と高く、禁煙タイムを設けたり、喫煙場所も決め換気扇を回して分煙対策に取り組んでいますが、なかなか難しく永遠の課題となっています。

4 インフルエンザ対策

昨年11月から、「罹らない、人にうつさない」を目的に社員対象にインフルエンザ予防接種費用の補助を始めました。

5 歩こう会・マラソンの呼びかけ

社員のほとんどが車通勤のため、運動不足の多いのも懸念していました。そこで県や市、体育協会が主催する歩こう会に積極的に参加して健康づくりに役立ててもらおうとPRしています。さくらウォークや元気とやまウォークラリーの参加などで、気持ちの良い汗をかき10㎞歩いた社員もいました。

また、職場内のコミュニケーション向上を目的に、毎年6月に太閤山ランドで行われる北日本放送主催の「いっちゃんリレーマラソン」にも毎回参加し、タスキを繋いで絆を深めたいという意欲のある参加者もいます。この日の為にスポーツジムに足繁く通いトレーニングに励む人も現れ、更に上を目指して「富山マラソン」に挑戦する人もでてきました。

6 ストレスチェックの実施

産業医の先生を交え、社員の健康状態、注意すべき予防対策などを安全衛生委員会で話し合い、昨年6月から北陸予防医学協会に委託して、集計やデータ分析を基に、高ストレス者には誰にも知られず産業医に相談できるサポート体制を整備しています。

7 身近なところに工夫を

平成28年9月に、協会けんぽ富山支部のサポートにより、社員に健康への意識を高めてもらう狙いで「階段カロリー消費ステッカー」を貼りました。身近な運動器具である階段を活用してもらえることで、メタボ予防はもちろん、日頃の小さな積み重ね（階段利用）を継続実践して健康を増進してもらえたら、やがて会社の業績アップにも繋がると思います。社員の反応も「なかなかいい」と評判です。

8 社内親睦

社内での親睦は社員の親睦会である「NAC」が主催しており、社員からの会費と会社補助で運営し、夏には浜黒崎海岸でバーベキューを行って、和気あいあいとリフレッシュし明日へ繋がる活力を生み出しています。

9 今後の取組み

安全衛生委員会での協議を踏まえて、健康に関する諸対策を推進しています。そのひとつに食生活の改善について管理栄養士さんと相談しながら進めたいと考えています。例えば、「腸は第二の脳」といわれるくらい大事な臓器。腸内の善玉菌は身体にとって良い働きをし増えることで消化吸収の促進や免疫力アップなど全身の健康を維持するために有効であることから、発酵食品の整腸パワーにも着目してみたいと思います。

北陸予防医学協会に新しい胸部X線車両が2台導入されました

当車両を導入するにあたり設けたコンセプトは、受診者様への「サービス」・「安全性」の更なる向上です。

「サービス」の向上につきましては、車両内2ヵ所に車外確認モニターを設置し、受診者様の存在をいち早く確認し、素早くお出迎えできるようにいたしました。「安全性」の向上につきましては、車両出入口ステップに赤と緑に点灯する安全灯を設置した他、取り外し可能な手すりも2本設置しており、お客様が安全に健診を受けられるよう配慮いたしました。

またAED（自動体外式除細動器）を常時搭載し、万が一にも人命に関わる事故が起きた際には、迅速に救急対応が取れるよう備えてあります。

当車両は北陸予防医学協会の「顔」として長く、一線で活躍することと期待しております。皆様、この新しい仲間をよろしくお願いいたします。

新職員紹介

野見　彩乃

医療技術部臨床検査科　臨床検査技師

岐阜医療科学大学　臨床検査学科を卒業しました。早く一人前の臨床検査技師になれるよう真面目に一生懸命働きたいと思っています。ご迷惑ばかりかけると思いますが、ご指導よろしくお願いします。

齊藤　圭亮

医療技術部放射線科　放射線技師

小学校2年生から高校3年生まで10年ほどソフトテニスをしていました。いち早く皆様のお役に立てるよう努力してまいります。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

長田　晶美

医療技術部放射線科　放射線技師

職員のひとりとして、受診者様への思いやりをもった行動をとりつつ、正確に診断できる画像を撮影できるように努力していきたいと思います。まだまだ不慣れなこともありますが、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

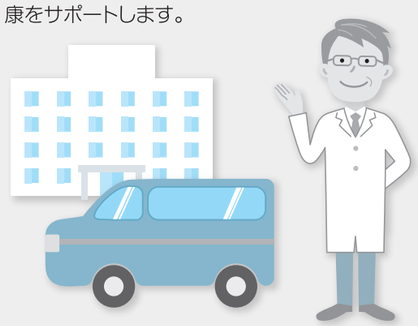
新医師紹介

愛場　信康

健康増進部長
医学博士／日本内科学会総合内科専門医／日本消化器内視鏡学会専門医・指導医／日本消化器がん検診学会認定医／人間ドック健診情報管理指導士／日本医師会認定産業医／労働衛生コンサルタント

北陸予防医学協会は、職場・教育機関などへバスが出向き巡回健診を、また富山健康管理センター・高岡総合健診センターでは受診者の方々に精度の高いドック健診をさせていただきます。

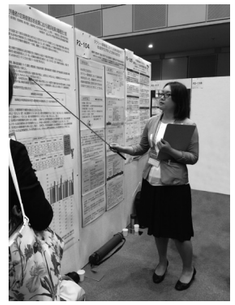
これらを通じ、職域や地域の皆さまの心身の健康をサポートします。



広報紙に関するご意見・ご要望等は、健康推進課 林または保井までご連絡ください。
TEL 076(436)1281　FAX 076(436)1240

第90回日本産業衛生学会が5月11日から13日にわたって東京で開催され、当協会から田添貴子保健師がポスターセッションで報告しました。以下にその内容を紹介します。

「男性労働者の定期健康診断結果における健診結果の職種別比較」



【目的】

生活習慣病予防のために健康診査の実施及びその結果に基づく適切な保健指導が必要であることは言うまでもないが、その結果については、地域や事業所規模、業務内容によって違いがあると言われている。産業看護の特徴である多様な労働環境に応じた保健指導の実践においては、まず、労働環境によって労働者の健康実態にどのような違いがあるのかを明らかにすることが不可欠である。そこで、富山県の男性労働者の健康診断データを基に、職種によって健診結果に相違があるかを検討した。

【方法】

1.対象：平成26年度に富山県内のA労働衛生機関で定期健診または特定健診を受けた事業所の16歳から74歳の男性労働者77,033人を対象とした。

2.データの収集：研究への同意を得られた事業所の健診結果を用いた。データは、A労働衛生機関の担当者より、氏名、生年月日、住所、事業所名を削除し、年齢、性別、職種、事業所規模、健康診断結果をあらかじめ決められたコードで入力された電子データの状態で受け取った。

3.分析方法

1）対象の職種は、問診票に従い生産現場業務、運転通信業務、サービス業務、事務業務、営業販売業務、農林漁業業務、管理業務、専門技能業務、保安業務の9職種に区分した。ただし、対象者が少なかった農林漁業業務を除いて検討した。

2）健康診断項目のうち、BMI、血圧、LDLコレステロール、HbA1cの4項目を用いて健康状態を評価した。各項目は、BMI26.4以上、収縮期血圧140mmHg以上または拡張期血圧90mmHg以上、LDLコレステロール140mg/dl、HbA1c6.0%以上を所見ありと判定した。

3）各職種の労働者の年齢構成の違いを調整するために、各検査項目別に、A労働衛生機関で健診を受診した16～74歳男性労働者全員の有所見率を基準とした年齢調整有所見比（以下、有所見比）を算出した。なお、この作業は事業所規模別（従業員500人以上を以下「大規模事業所」、従業人50人未満を以下「小規模事業所」）に行った。

【結果】

1. 大規模事業所労働者の総数は22,825人、小規模事業所労働者の総数は21,528人であった。
2. 大規模事業所における平均年齢は43.2（SD12.5）歳で、保安業務の37.9（SD12.8）歳から管理業務の53.0（SD7.2）歳に分布していた。小規模事業所における平均年齢は44.8（SD13.2）歳で、サービス業務の41.1（SD13.6）歳から保安業務の55.1（SD13.9）歳に分布していた。
3. 大規模事業所の職種別有所見比（各項目の大規模事業所全体を100とした場合）、①BMIでは、生産現場業務90.2から保安業務135.9に、②血圧は保安業務72.5から管理業務147.1に、③LDLコレステロールは保安業務88.9から管理業務116.1に、④HbA1cは保安業務72.3から管理業務152.8に分布していた。
4. 小規模事業所の職種別有所見比（各項目の小規模事業所全体を100とした場合）、①BMIでは、生産現場業務89.5から管理業務131.2に、②血圧は営業販売業務78.7から保安業務153.6に、③LDLコレステロールは生産現場業務90.7から管理業務114.4に、④HbA1cは専門技能業務82.3から保安業務169.2に分布していた。

【結論】

富山県の男性労働者の健診結果は、年齢、事業所規模の影響を考慮しても職種間で有所見比に相違があった。本結果より、労働者の集団評価を行う場合、職種を考慮することの必要性が確認できた。生活習慣病予防対策を行う場合、健診結果に基づく個別事後指導に加えて、職種単位での集団・小グループ指導の充実にも努めていくことが重要である。

第90回 日本産業衛生学会レポート

5月11日～13日、第90回日本産業衛生学会が東京ビッグサイトで行われました。

「産業保健近未来図」と題し、第100回大会に向けたこの10年間で産業保健が向かうべき道筋、取り組むべき課題について討論や意見交換が行われました。日本産業衛生学会では、今回から、厚生労働省が後援し参画、プログラムには、厚生労働省が掲げる下記の重要課題がシンポジウム等で取り上げられ、先進事例の提示と活発な議論が行われました。ますます重要となる産業衛生ですが、当協会でもこの大会への参加を通じ、富山県の労働衛生分野のレベルアップにつなげられればと思います。

①近未来のがん予防対策
②産業化学物質対策の強化
③ストレスチェック制度を含む産業精神保健対策の強化
④治療と就労の両立支援の確立
⑤労働安全衛生法に基づく定期健康診断の見直し
⑥これからの産業医の在り方
⑦過労死・自殺予防対策に関して